

あとがき

現代教化シリーズ〈GRANTHA〉は現代宗教研究所で新たに企画された冊子です。令和元年度から当研究所発行の『現代宗教研究』『教化学研究』は全寺院配布が中止となり、印刷部数も大幅に減少することとなりました。閲覧希望の方は現代宗教研究所サイト (genshu.nichiren.or.jp) からダウンロードしていただく形を取っていただくことになりましたが、この形だけでは全国の御寺院に研究所の活動をご報告することに充分とはいえません。

そこで新たな小冊子を企画して闍宗各聖にお届けさせていただく事になりました。現代教化シリーズ、名称をGRANTHAといたしました。サンスクリット語で「論文」「書物」を意味します。今回はシリーズ1、「霊と仏教」をテーマとして仏教における霊魂観、日本人の霊魂観等々、霊魂に関わる四つの論考を載せております。

三原正資所長の「〈私〉をめぐる問い—わたくしといふのはいったい何だ—(宮沢賢治)」は令和3年3月29日、鈴木隆泰先生の「インド仏教と霊魂」は令和2年12月14日、蓑輪顕量先生の「無我と霊魂—臨終時の記述及び葬送儀礼を一つの手がかりに—」は令和3年3月29日、岡田文弘先生の「日本人の霊魂観：文学・物語を中心に」は令和3年1月14日になされた当研究所主催の講演を記録したものです。

日本に生きる仏教徒の立場として、霊魂をどのように捉えて考えていくべきか、布教の現場にある各聖にとりまして、いささか厄介な問題かもしれません。答えにくい問題でありながら、明確な答えを求められることが多いのではないのでしょうか。現代教化シリーズ〈GRANTHA〉が参考になれば幸いです。今後も現代教化の現場に即した問題を取り上げお手元に届けていきたいと考えております。